



HyperFlex ポッドの設定

- [前提条件, 1 ページ](#)
- [HyperFlex ポッドの設定, 2 ページ](#)
- [Cisco UCS Director での HyperFlex ポッドの作成, 3 ページ](#)
- [Cisco UCS Director での HyperFlex ポッドの手動設定, 5 ページ](#)

前提条件

この統合を設定する前に、Cisco HyperFlex システム と Cisco UCS Director で前提条件タスクを完了しておく必要があります。

Cisco HyperFlex システムの前提条件

Cisco UCS Director と統合する前に、Cisco HyperFlex システム で以下の前提条件タスクを完了しておく必要があります。

前提条件	ドキュメントへのリンク
Cisco HyperFlex HX シリーズ ノードのインストール	『Cisco HyperFlex HX-Series Install and Upgrade Guides』
Cisco HyperFlex システム ソフトウェアのインストールと設定	『Cisco HyperFlex Systems Getting Started Guide』
VMware vCenter での Cisco HX Data Platform クラスタの作成	『Cisco HyperFlex Systems Getting Started Guide』

Cisco UCS Director の前提条件

Cisco HyperFlex システムを統合する前に、Cisco UCS Director で以下の前提条件タスクを完了しておく必要があります。

前提条件	ドキュメントへのリンク
Cisco UCS Director のインストール	『Cisco UCS Director Installation Guides』
(任意) Cisco UCS Director ベアメタルエージェントのインストール	『Cisco UCS Director Installation Guides』
Cisco UCS Director のライセンスのインストール	『Cisco UCS Director Installation Guides』
必要なグループおよびユーザの作成	『Cisco UCS Director Administration Guide』

HyperFlex ポッドの設定

Cisco UCS Director にログインすると、[コンバージド (Converged)] 画面が表示されます。この画面には、環境に現在設定されているポッドが表示されます。この画面で、新しいポッドを追加したり、既存のポッドを選択してポッド内のリソースの詳細を表示したりできます。

ポッドは手動で作成することもできますし、ガイド付きセットアップウィザードを使用して作成することもできます。

[HyperFlex ポッド設定 (HyperFlex Pod Configuration)] ウィザードによりすべてのサーバを追加

[HyperFlex ポッド設定 (HyperFlex Pod Configuration)] ウィザードの指示に従って、Cisco UCS Director で Cisco HyperFlex システム用のポッドを作成します。すべてのサーバが自動的に Cisco UCS Manager アカウントに追加されます。このウィザードを使用する場合、特定のサーバだけをポッドに追加するオプションはありません。ガイド付きセットアップウィザードによる HyperFlex ポッドの設定については、次を参照してください。 [Cisco UCS Director での HyperFlex ポッドの作成, \(3 ページ\)](#)

選択したサーバまたはすべてのサーバを手動セットアップにより追加

手動セットアップでは、購入した物理サーバライセンスの数に基づいて、選択したサーバまたはすべてのサーバを Cisco UCS Manager アカウントに追加できます。HyperFlex ポッドの手動設定については、次を参照してください。 [Cisco UCS Director での HyperFlex ポッドの手動設定, \(5 ページ\)](#)

ポッドの設定を完了すると、Cisco HyperFlex システムでデータストアの管理や VM のプロビジョニングを行えるようになります。

Cisco UCS Director での HyperFlex ポッドの作成

はじめる前に

[前提条件](#), (1 ページ) に記載されているすべての前提条件タスクを完了する必要があります。

-
- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [ガイド付きセットアップ (Guided Setup)] の順に選択します。
- ステップ 2** [HyperFlex ポッドのセットアップ (HyperFlex Pod Setup)] をダブルクリックしてウィザードを起動します。
Cisco UCS Director を開くと [ガイド付きセットアップ (Guided Setup)] 画面が表示される場合は、[HyperFlex ポッド設定 (HyperFlex Pod Configuration)] ウィザードのチェックボックスをオンにして、[送信 (Submit)] を 2 回クリックします。この場合、ステップ 4 に進むことができます。
- ステップ 3** [概要 (Overview)] 画面で、表示された内容を確認してから [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 4** [ポッド (Pod)] 画面で、次のいずれかの操作を実行してから [次へ (Next)] をクリックします。
- [ポッド (Pod)] ドロップダウン リストから既存の HyperFlex ポッドを選択します。
 - [POD フォームの追加 (Add POD Form)] をクリックしてフィールドに入力し、新しい HyperFlex ポッドを作成して [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 5** [VMware] 画面で、次の操作を実行します。
- a) [アカウント (Accounts)] ドロップダウン リストから、次のいずれかのオプションを選択します。
- 既存の VMware クラウド アカウント
 - 新規 VMware クラウド アカウントを作成する場合は、[選択 (Select)]
- b) [選択 (Select)] を選択した場合は、[新規アカウントの作成 (Create New Account)] 領域のフィールドに値を入力します。
新規アカウントを作成するには、次の情報が必要です。
- クラウドの名前
 - vCenter またはホストのアドレス
 - クレデンシャル ポリシー、または管理者権限あるいはルート権限が割り当てられている有効な vCenter アカウントのユーザ ID とパスワード
 - vCenter アドレスへのアクセスに使用されるポート
 - アクセス URL
- 画面の残りのフィールドはオプションです。
- c) [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 6** [Cisco UCS Manager] 画面で、次の手順を実行します。

- a) [アカウント (Accounts)] ドロップダウン リストから、次のいずれかのオプションを選択します。
- 既存の Cisco UCS Manager アカウント
 - [選択 (Select)] を選択して、新しい Cisco UCS Manager アカウントを作成
- b) [選択 (Select)] を選択した場合は、[新規アカウントの作成 (Create New Account)] 領域のフィールドに値を入力します。
新規アカウントを作成するには、次の情報が必要です。
- アカウント名
 - サーバアドレス
 - クレデンシャル ポリシー、または管理者権限付きの有効な Cisco UCS Manager アカウントのユーザ ID とパスワード
 - 転送タイプ
 - このアドレスへのアクセスに使用されるポート
- (注) このプロセスでは、すべてのサーバが自動的にポッドに追加されます。ライセンスの数がサーバの数よりも少ない場合は、エラーメッセージが表示されます。この問題を解決するには、ガイドセット付きセットアップウィザードをキャンセルし、代わりに HyperFlex ポッドを手動で設定します。[Cisco UCS Director での HyperFlex ポッドの手動設定 \(5 ページ\)](#) を参照してください。
- c) [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 7 [Cisco HyperFlex] 画面で、次の手順を実行します。

- a) [アカウント (Accounts)] ドロップダウン リストから、次のいずれかのオプションを選択します。
- 既存の Cisco HyperFlex アカウント
 - [選択 (Select)] を選択して、新しい Cisco HyperFlex アカウントを作成
- b) [選択 (Select)] を選択した場合は、[新規アカウントの作成 (Create New Account)] 領域のフィールドに値を入力します。
新規アカウントを作成するには、次の情報を入力します。
- アカウント名
 - クラスタ管理 IP アドレス
 - 既存のクレデンシャルポリシーを使用する場合は、[クレデンシャルポリシーの使用 (Use Credential Policy)] チェックボックスをオンにして、ドロップダウンリストからクレデンシャルポリシーを選択します。
 - クレデンシャルポリシーを使用しない場合は、管理者権限付きの有効な Cisco HX Data Platform アカウントのユーザ ID とパスワードを入力します。
 - 同じ HyperFlex クレデンシャルを使用する HTTPS ポートまたは SSH ポート

c) [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 8 [要約 (Summary)] 画面で、ウィザードで設定した各項目のステータスを確認します。

ステップ 9 [要約 (Summary)] のすべての項目が許容される場合は、[閉じる (Close)] をクリックします。設定を更新するには、[戻る (Back)] をクリックします。

Cisco UCS Director での HyperFlex ポッドの手動設定

はじめる前に

[前提条件, \(1 ページ\)](#) に記載されているすべての前提条件を満たす必要があります。

Cisco UCS Manager および VMware に追加する基本ライセンスとサーバライセンスが使用可能であることを確認します。

-
- ステップ 1** HyperFlex ポッドを作成します (または既存のものを選択します)。[Pod の追加, \(5 ページ\)](#) を参照してください。
ポッドの [タイプ (Type)] を選択する際は、ドロップダウンリストから [HyperFlex] ポッドを選択します。
- ステップ 2** VMware アカウントを追加します (または既存のものを選択します)。[VMware クラウドの作成, \(7 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 3** Cisco UCS Manager アカウントを追加します (または既存のものを選択します)。[Cisco UCS Manager アカウントの追加, \(11 ページ\)](#) を参照してください。
[サーバ管理 (Server Management)] を選択する際は、ドロップダウンリストから [選択したサーバ (Selected Servers)] を選択し、特定のサーバを HyperFlex ポッドに追加します。
- ステップ 4** HyperFlex アカウントを追加します (または既存のものを選択します)。参照先: [HyperFlex アカウントの追加, \(14 ページ\)](#)
-

Pod の追加

-
- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [物理アカウント (Physical Accounts)] を選択します。
- ステップ 2** [物理アカウント (Physical Accounts)] ページで、[ポッド (Pods)] をクリックします。
- ステップ 3** [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 4** [Add Pod (ポッドの追加)] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[名前 (Name)] フィールド	Pod の記述名です。
[タイプ (Type)] ドロップダウン リスト	<p>追加するポッドのタイプを選択します。次のタイプのいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [FlexPod] • [VersaStack] • [汎用 (Generic)] • [ExpressPod ミディアム (ExpressPod Medium)] • [VSPEX] • [ExpressPod スモール (ExpressPod Small)] • [Vblock] • [HyperFlex] • [仮想 SAN ポッド (Virtual SAN Pod)] <p>汎用タイプ以外の Pod には、特定の物理コンポーネントおよび仮想コンポーネントにのみ対応しています。汎用ポッドには特定のポッドライセンスは必要ありません。また、汎用ポッドには、任意のタイプの物理コンポーネントまたは仮想コンポーネントを追加できます。Pod の実行に必要な個々のデバイス ライセンスを含む、バンドルされた Pod ライセンス (FlexPod、Vblock、VSPEX) の詳細については、『Cisco UCS Director Installation and Upgrade Guides』を参照してください。</p> <p>(注) Cisco UCS Director では、VersaStack ポッドと汎用ポッドのみが IBM アカウントでサポートされます。</p>
[サイト (Site)] ドロップダウン リスト	Pod を追加するサイトを選択します。環境にサイトがない場合は、このステップを省略できます。
[説明 (Description)] フィールド	(任意) Pod の説明です。
[住所 (Address)] フィールド	Pod の物理ロケーションです。たとえば、このフィールドには Pod の市区町村、またはその他の内部的な識別子を入力します。

名前	説明
[POD を非表示 (Hide Pod)] チェックボックス	統合チェックビューにポッドを表示したくない場合は、オンにしてポッドを非表示にします。Pod からアカウントの追加または削除は引き続き実行できます。 たとえば、このチェックボックスを使用して、物理要素や仮想要素の存在しないポッドが統合ビューに表示されないようにすることができます。

ステップ 5 [追加 (Add)] をクリックします。

次の作業

Pod にアカウントを 1 つ以上追加します。

VMware クラウドの作成

VMware クラウドの作成時に、次のいずれかの方法でデータセンターとクラスタを指定できます。

- クレデンシヤル ポリシーに含まれます。
- [VMware データセンター (VMware Datacenter)] および [VMware クラスタ (VMware Cluster)] フィールド
- [Discover データセンター/クラスタ (Discover Datacenters / Clusters)] チェック ボックス



(注) クレデンシヤル ポリシー内のデータセンターや VMware データセンターおよび VMware クラスタを選択できます。[クラウドの追加 (Add Cloud)] 画面やクレデンシヤル ポリシー フォームでデータセンターを指定すると、エラーが発生します。

ステップ 1 [管理 (Administration)] > [仮想アカウント (Virtual Accounts)] の順に選択します。

ステップ 2 [仮想アカウント (Virtual Accounts)] ページで、[仮想アカウント (Virtual Accounts)] をクリックします。

ステップ 3 [追加 (Add)] をクリックします。

ステップ 4 [クラウドの追加 (Add Cloud)] 画面で、次の必須フィールドに入力します。

名前	説明
[クラウドタイプ (Cloud Type)] ドロップダウン リスト	<p>使用可能なクラウド タイプが表示されます。 [VMware] を選択します。</p> <p>(注) 次のフィールドは、[VMware] を選択した場合に表示されます。他のクラウドタイプでは、そのクラウドタイプに固有のフィールドが表示されます。</p>
[クラウド名 (Cloud Name)] フィールド	<p>クラウドの名前。この名前に一重引用符を含めることはできません。</p> <p>(注) Cisco UCS Director 内では各クラウドに固有の名前を付ける必要があります。クラウドの追加後は、すべてのレポートでこのクラウド名によって表されます。</p>
[サーバのアドレス (Server Address)] フィールド	vCenter サーバのアドレス。
[クレデンシャル ポリシーの使用 (Use Credential Policy)] チェック ボックス	手動で情報を入力する代わりに、このアカウントのクレデンシャル ポリシーを使用する場合は、このチェック ボックスをオンにします。
[クレデンシャル ポリシーの使用 (Use Credential Policy)] ドロップダウン リスト	<p>[クレデンシャル ポリシーの使用 (Use Credential Policy)] をオンにした場合は、このドロップダウン リストから使用するクレデンシャル ポリシーを選択します。</p> <p>このフィールドが表示されるのは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合のみです。</p>
[サーバのユーザ ID (Server User ID)] フィールド	vCenter サーバのユーザ名。
[サーバのパスワード (Server Password)] フィールド	vCenter サーバのパスワード。
[サーバアクセスポート (Server Access Port)] フィールド	サーバ ポート番号。
[サーバアクセス URL (Server Access URL)] フィールド	サーバアクセス URL。
[VMwareデータセンター (VMware Datacenter)] フィールド	vCenter アカウントのデータセンター名。

名前	説明
[Discover データセンター/クラスター (Discover Datacenters / Clusters)] チェック ボックス	VMware データセンターと関連する VMware クラスターを検出して使用するには、このチェック ボックスをオンにします。
[VMware クラスター (VMware Cluster)] フィールド	vCenter アカウントの VMware クラスターの名前。 この名前を使用して、指定されているポッドのリソースを検出、監視、管理できます。vCenter アカウント全体が Cisco UCS Director によって管理される場合は、このフィールドを空白にします。
[データセンター/クラスターの選択 (Select Datacenters / Clusters)] フィールド	使用したい関連データセンターとクラスターをチェックします。 (注) このフィールドは、[Discover データセンター/クラスター (Discover Datacenters / Clusters)] チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[SRM を有効化します (Enable SRM)] チェック ボックス	アカウントの Site Recovery Manager (SRM) を有効にするには、このチェック ボックスをオンにします。
[プライマリ SRM サーバアドレス (Primary SRM Server Address)] フィールド	プライマリ SRM サーバの IP アドレス。 (注) このフィールドは、[SRM を有効化します (Enable SRM)] チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[プライマリ SRM サーバのユーザ ID (Primary SRM Server User ID)] フィールド	プライマリ SRM サーバのユーザ ID。 (注) このフィールドは、[SRM を有効化します (Enable SRM)] チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[プライマリ SRM サーバのパスワード (Primary SRM Server Password)] フィールド	プライマリ SRM サーバのユーザのパスワード。 (注) このフィールドは、[SRM を有効化します (Enable SRM)] チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[プライマリ SRM サーバアクセスポート (Primary SRM Server Access Port)] フィールド	プライマリ SRM サーバのポート番号。SRM バージョン 6.0 の場合は、ポート番号として「9086」と入力します。 (注) このフィールドは、[SRM を有効化します (Enable SRM)] チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。

名前	説明
[リモート SRM サーバ ユーザ ID (Remote SRM Server User ID)] フィールド	リモート SRM サーバのユーザ ID。 (注) このフィールドは、[SRMを有効化します (Enable SRM)]チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[リモート SRM サーバパスワード (Remote SRM Server Password)] フィールド	リモート SRM サーバのユーザ ID のパスワード。 (注) このフィールドは、[SRMを有効化します (Enable SRM)]チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[SSO の使用 (Use SSO)]チェック ボックス	シングル サインオン (SSO) による認証を行うには、このチェック ボックスをオンにします。 SSO オプションは、仮想 SAN (VSAN) にのみ使用可能です。SSO のクレデンシャルは、仮想 SAN クラスタのストレージ プロファイルを使用した VM のプロビジョニングが必要です。
[SSO サーバのアドレス (SSO Server Address)] フィールド	シングル サインオン サーバの IP アドレス。 (注) このフィールドは、[SSO の使用 (Use SSO)]チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[SSO サーバのユーザ ID (SSO Server User ID)] フィールド	SSO サーバのユーザ ID。 (注) このフィールドは、[SSO の使用 (Use SSO)]チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[SSO サーバのパスワード (SSO Server Password)] フィールド	SSO サーバのユーザ ID のパスワード。 (注) このフィールドは、[SSO の使用 (Use SSO)]チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[SSO サーバのアクセス URL (SSO Server Access URL)] フィールド	SSO サーバ アクセス用の URL。 (注) このフィールドは、[SSO の使用 (Use SSO)]チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[SSO サーバのアクセスポート (SSO Server Access Port)] フィールド	ポート番号。vCenter バージョン 5.x の場合は、ポート番号として「7444」と入力します。 (注) このフィールドは、[SSO の使用 (Use SSO)]チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。

名前	説明
[サーバアクセス URL (Server Access URL)]フィールド	サーバアクセス用の URL。
[説明 (Description)]フィールド	クラウドの説明。
[連絡先の電子メール (Contact Email)]フィールド	クラウドの連絡先の電子メールアドレス。
[ロケーション (Location)]フィールド	ロケーション。
[POD] ドロップダウンリスト	<p>コンバージドインフラストラクチャポッドを選択します。</p> <p>ポッドの名前を選択すると、VMwareクラウドのアカウントが、コンバージドインフラストラクチャスタックにて使用可能となります。</p> <p>(注) 仮想SANポッドには、複数の仮想アカウントを追加することはできません。</p>
[サービスプロバイダー (Service Provider)]フィールド	サービスプロバイダーの名前。

ステップ5 [追加 (Add)]をクリックします。

Cisco UCS Manager アカウントの追加

はじめる前に

Cisco UCS Manager アカウントが属する Pod を追加します。

ステップ1 [管理 (Administration)]>[物理アカウント (Physical Accounts)]を選択します。

ステップ2 [物理アカウント (Physical Accounts)]をクリックします。

ステップ3 [追加 (Add)]をクリックします。

ステップ4 [アカウントの追加 (Add Account)]画面で、次の操作を実行します。

- a) [ポッド (Pod)] ドロップダウンリストから、このアカウントが属しているポッドを選択します。
- b) [カテゴリタイプ (Category Type)] ドロップダウンリストから、[コンピューティング (Computing)]を選択します。
- c) [アカウントタイプ (Account Type)] ドロップダウンリストから、[UCSM]を選択します。

d) [送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 5 [アカウントの追加 (Add Account)] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[認証タイプ (Authentication Type)] ドロップダウン リスト	<p>アカウントに使用する認証タイプを選択します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ローカルで認証済み (Locally Authenticated)] : ローカルで認証されたユーザ アカウントとは、ファブリック インターコネクトを介して直接認証されたユーザ アカウントのことであり、管理者権限または AAA (認証、認可、アカウントिंग) 権限を持っていれば誰でも有効/無効にすることができます。 • [リモートで認証済み (Remotely Authenticated)] : リモートで認証されたユーザ アカウントとは、LDAP、RADIUS、TACACS+ のいずれかを介して認証されたユーザ アカウントのことです。
[サーバ管理 (Server Management)] ドロップダウン リスト	<p>アカウントのサーバをどのように管理するか選択します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [すべてのサーバを管理 (All Servers)] : すべてのサーバが管理されます。このオプションがデフォルトです。このオプションを選択すると、管理の状態ですべてのサーバが追加されます。 • [選択したサーバのみ管理 (Selected Servers)] : 選択したサーバのみが管理されます。必要に応じて管理サーバリストからサーバの追加および削除ができます。このオプションを選択すると、未管理の状態ですべてのサーバが追加されます。
[アカウント名 (Account Name)] フィールド	アカウントに割り当てる一意の名前です。
[サーバのアドレス (Server Address)] フィールド	Cisco UCS Manager の IP アドレスです。クラスタ設定では仮想 IP アドレスになります。
[クレデンシャル ポリシーの使用 (Use Credential Policy)] チェック ボックス	手動で情報を入力する代わりに、このアカウントのクレデンシャルポリシーを使用する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

名前	説明
[クレデンシャルポリシー (Credential Policy)] ドロップダウン リスト	[クレデンシャルポリシーの使用 (Use Credential Policy)] チェックボックスをオンにした場合は、このドロップダウンリストから使用するクレデンシャル ポリシーを選択します。 このフィールドが表示されるのは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合のみです。
[ユーザ ID (User ID)] フィールド	アカウントが Cisco UCS Manager のアクセスに使用するユーザ名です。このユーザ名は Cisco UCS Manager の有効なアカウントである必要があります。 このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。
[パスワード (Password)] フィールド	ユーザ名に関連付けられたパスワードです。 このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。
[UCS 認証ドメイン (UCS Authentication Domain)] フィールド	リモートで認証するアカウントの認証ドメインです。 このフィールドは、認証されたアカウントをローカルで使っている場合、または、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合は表示されません。
[通信タイプ (Transport Type)] ドロップダウン リスト	アカウントで使用する通信タイプを選択します。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • http • https このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。
[ポート (Port)] フィールド	Cisco UCS Manager のアクセスに使用するポートです。 このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。
[説明 (Description)] フィールド	(任意) アカウントの説明です。
[連絡先の電子メール (Contact Email)] フィールド	管理者またはアカウント責任者の連絡先に使用できる電子メールアドレスです。
[ロケーション (Location)] フィールド	アカウントのロケーションです。

名前	説明
[サービスプロバイダー (Service Provider)] フィールド	(任意) 該当する場合は、アカウントに関連付けられるサービスプロバイダー名です。

ステップ 6 [追加 (Add)] をクリックします。

Cisco UCS Director によって、Cisco UCS Manager への接続がテストされます。テストが成功する場合は Cisco UCS Manager アカウントを追加して、Cisco UCS Manager にあるアカウントに関連するすべてのインフラストラクチャ要素 (シャーシ、サーバ、ファブリック インターコネクト、サービスプロファイル、プールなど) を検出します。この検出処理およびインベントリ収集サイクルの完了には、およそ 5 分かかります。

[管理 (Administration)] > [システム (System)] > [システム タスク (System Tasks)] タブで設定されるポーリング間隔は、インベントリ収集の頻度を指定します。

HyperFlex アカウントの追加

ステップ 1 [管理 (Administration)] > [物理アカウント (Physical Accounts)] を選択します。

ステップ 2 [物理アカウント (Physical Accounts)] ページで、[物理アカウント (Physical Accounts)] をクリックします。

ステップ 3 [追加 (Add)] をクリックします。

ステップ 4 [アカウントの追加 (Add Account)] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ポッド (POD)] ドロップダウン リスト	物理アカウントが属する HyperFlex ポッドを選択します。
[カテゴリ (Category)] ドロップダウン リスト	[ストレージ (Storage)] を選択します。
[アカウントタイプ (Account Type)] ドロップダウン リスト	[HyperFlex] を選択します。

ステップ 5 [送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 6 [アカウントの追加 (Add Account)] 画面で、次のフィールドに入力します。

[名前 (Name)]	説明
[アカウント名 (Account Name)] フィールド	追加したい物理アカウントに割り当てる固有の名前
[説明 (Description)] フィールド	アカウントの説明。
[クラスタ管理 IP アドレス (Cluster Management IP Address)] フィールド	HyperFlex クラスタ管理 IP アドレス。
[クレデンシャル ポリシーの使用 (Use Credential Policy)] チェック ボックス	手動で情報を入力する代わりに、このアカウントのクレデンシャル ポリシーを使用する場合は、このボックスをオンにします。
[クレデンシャルポリシー (Credential Policy)] ドロップダウン リスト	[クレデンシャル ポリシーの使用 (Use Credential Policy)] をオンにした場合は、このドロップダウン リストから使用するクレデンシャル ポリシーを選択します。 このフィールドが表示されるのは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合のみです。
[ユーザ名 (Username)] フィールド	このアカウントにアクセスするためのユーザ名。 このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。
[パスワード (Password)] フィールド	ユーザ名に関連付けられたパスワードです。 このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。
[HTTPS ポート (HTTPS Port)] フィールド	アカウントで使用するサーバ ポート番号を入力します。 このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。
[SSH ポート (SSH Port)] フィールド	CLI コマンドを実行する SSH ポート番号を入力します。 このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。
[連絡先 (Contact)] フィールド	アカウントの連絡先の電子メール アドレス。
[ロケーション (Location)] フィールド	ロケーション。

ステップ 7 [送信 (Submit)] をクリックします。

Cisco UCS Director によって Cisco HyperFlex との接続がテストされます。テストに成功すると、アカウントが追加され、そのアカウントに関連するすべてのインフラストラクチャ要素が検出されます。この検出処理およびインベントリ収集サイクルの完了には、およそ 5 分かかります。

[管理 (Administration)] > [システム (System)] > [システム タスク (System Tasks)] タブで設定されるポーリング間隔は、インベントリ収集の頻度を指定します。